

発表概要



[1] 野尻 拡(のじりひろ)

経済学部経営学科・吉田ゼミ3年

CSR 情報と株価の関係性に関する分析～リーマンショックをテーマとして～

概要: 本研究では、永続企業の条件となる指標と株価の関係性について明らかにすることを目的としている。永続企業とは安定的に収益を計上しながら、創業してから多くの年数を重ねている企業群を指す。こうした永続企業を測る一つの指標として、倍・坂入・吉田(2012)では、「経営理念の共有化と展開」「経営理念に基づく意思決定」「自律的な判断ができる組織づくり・人材育成」「ステークホルダー・エンゲージメント」「事業活動を通じて経営理念を価値に変えていく」の5つを挙げている(以下、5原則とする)。これら5つの原則が当てはまる企業ほど、リーマンショックのようなネガティブな経済ショックに対しても、株価が安定しているのではないかと考え、リーマンショックの直前直後(前日、翌日)、1ヶ月後、1年後の各企業の株価から、下落率と復元率を計算し、倍・坂入・吉田(2012)が示した5原則の指標との関係性を明らかとする。

[2] 神保 葉月(じんぼはづき)

経済学部経営学科・吉田ゼミ3年

財務情報を中心としたお菓子業界3社の経営分析

概要: 本研究は、お菓子業界3社(江崎グリコ、カルビー、森永製菓)の財務分析を通して、各社の強みや弱みを財務情報の視点から明らかにするものである。具体的には、まず産業レベル(セミマクロ)において、お菓子業界の市場規模を確認した後に、収益性分析、安全性分析、成長性分析の3つの財務分析を実施する。この中で中心となるのは収益性分析である。ROAの計算に始まり、総資本回転率と売上高利益率に分解し、収益性の源泉が回転率と利益率のいずれにあるのかを特定する。その後、損益計算書をベースとしたコスト構造についても言及していく。

[3] 大道 聖斗(だいどうまさと)

経済学部経済学科・大塚ゼミ3年

休講情報システム開発へ向けての考察 ―他大学にみる情報提供方法の長所と短所―

概要: 大学生にとって休講情報は極めて重要な情報のひとつである。休講情報の提供の方法は掲示板による紙の貼り出しから Web を使う方法、電子メールによる通知など大学によって様々である。本学の場合は Web による掲示板を利用しており、学外からでもパソコンを使えば休講ページを閲覧することができる。しかし、スマートフォンの場合はモバイルサイトから見るができず PC サイトに遷移する手間が必要で手軽ではない。本研究では、本学の休講情報の提供方法についてアンケートを実施し利点や課題について分析する。また、他大学例えば箱根駅伝出場大学の休講情報ページと比較を行い、休講情報提供の方法について考察を行う。

[4] 大島 隼(おおしまはやと)

経済学部経営学科・吉田ゼミ3年

LINE 公式アカウントの登録動機に関する研究

概要: 本研究は、O2O(オフライン to オンライン)の消費者動向に関する研究である。いくつかの先行研究によれば、LINE の公式アカウントをオンライン上で登録する動機として最も高いのはスタンプの配布と言われている。しかし、筆者が独自に調査したアンケートでは、ユーザーが一時的に公式アカウントを登録したとしても、その後すぐにブロックしてしまい、結局、ユーザーに情報が届くことは多くないという結果を得ている。そこで、本稿では LINE 公式アカウントの登録動機をオンラインではなくオフラインに求め、オフラインで公式アカウントを登録した後、それから送られてくる広告に目を通し、再び来店する人はどのような性質があるのかを関連付ける研究を行う。

[5] 荒井 夏奈(あらいかな)

外国語学部国際交流・国際協力専攻・千葉ゼミ3年

三浦 穂乃香(みうらほのか)

外国語学部ドイツ語・ドイツ文化専攻・千葉ゼミ3年

山地 美吏(やまじみり)

外国語学部英語・英米文化専攻・千葉ゼミ3年

サーバー構築実習のための私家版用語集「さーばあはじめました」の作成

概要: 専門ゼミナールでは Linux (CentOS 6.8)を用いたサーバー構築実習を行っている。本発表ではその補助教材として使用する用語集の設計と構築の経過について報告する。用語集は紙と電子媒体の 2 つのバージョンで作成し、ハードの準備と OS のインストール、ネットワークの設定やファイルシステム、ユーザー管理を含むサーバーの基本設定とその方法(エディタの使用法を含む)、実習で導入する各種サービスの導入と管理の方法までを扱う。実習の内容に即して情報をコンパクトに提供するとともに、文章は読みやすさを意識し、また図やイラストを用いて分かりやすい説明をめざす。紙媒体の用語集ではメモのためのスペースも確保し、また開きやすくページが探しやすいよう製本方法も工夫する。電子媒体の用語集にはリンクと問題出題機能の実装を試み、復習のための利便性を高める。

[6] 金子 哲也(かねこてつや)

経済学部経営学科・大塚ゼミ3年

ボードコンピュータを用いたプログラミング教育

概要: 文部科学省は2020年度から「小学校でのプログラミング教育の必修化」を検討することを発表してから、小中学校でのプログラミングの教育が注目されるようになった。例えば PC 上で比較的簡単なロジックでプログラムすることが可能な Scratch を利用した教育や BASIC プログラミングが可能な IchigoJam などのボードコンピュータの活用などさまざまである。本研究では、そこで実際に初等教育に用いられている複数のプログラミング環境を紹介するとともにその比較を行いたい。また、近年注目されている IchigoJam や RaspberryPi, arduino といったボードコンピュータを複数稼働させ、その可能性を比較検討する。

[7] 中嶋 広明(なかしまひろあき)

経済学部経営学科・吉田ゼミ3年

地域の web による情報発信のあり方～××の街を中心として～

概要: 近年、地方自治体は「××の街」というように、様々なブランディングのための施策を行ったり、PR をしたりしている。しかし、掲げているキャッチフレーズと、そのための情報発信の品質が合っていない地域も散見され、看板倒れとなっている地域も少なくない。そのような背景には、そもそも自治体組織における原課と広報広聴課間におけるコミュニケーションロスや一定期間単位の人事ローテーションなどがあるため、地域としての潜在的な能力や魅力があるにも関わらず、それが地域内外の人々に適切に届いていない点が挙げられる。そこで本稿では、大学近隣の自治体を事例として、自治体が掲げるキャッチフレーズと情報発信の質・量の比較・検討を行い、両者が一致/マッチするための情報発信のあり方についての考察を行い、適切な情報発信モデルを提案する。

[8] 城之内 清悟(じょうのうちしんご)

外国語学部英語・英米文化専攻・千葉ゼミ4年

衣料品の販売促進に繋げる SNS の構築と評価

概要:近年、多くの衣料品店がオンラインショッピングのサービスを開始しているが、その一方で注目されるのがファッションに関する SNS (以下 FSNS と略す) の出現である。自分の衣服の着こなしを投稿できるものや、投稿された写真に値段が表示され、そこからオンラインで買い物が可能なものもある。FSNS はそれぞれ異なる機能や特長を持っており、問題点や弱点も散見される(LINE の公式アカウントがあるが、一方的に情報を流すだけで利用者間の交流がない、など)。本発表では、これまでの FSNS の利用状況をまとめるとともに、FSNS をどう販売促進に繋げるかを検討し、問題点や改善点をふまえて Facebook のページを試作する。Facebook だけでは実現のむずかしいユーザー情報の管理、写真の編集と投稿の各機能については共同研究者のゼミ生と協力して投稿システムを構築し、FSNS サービスとして運用し評価を行う。

[9] 鞠 元佳(きくげんか)

外国語学部日本語・国際コミュニケーション専攻・千葉ゼミ4年

Java 技術をもちいた SNS 投稿システムの構築と運用

概要:Java 技術は 1992 年の誕生以来様々な領域で使われているが、現在 Java がもっとも人気があるのは企業などエンタープライズ部門のシステム構築においてであろう。Java で作られたシステムはたくさんあるのが、本発表では Java 言語の知識を生かしオリジナルのシステムを構築・運用してみたい。今回は、ゼミ生を仮想のカスタマーとして、SNS の運用を支援するウェブ投稿システムの構築を Java をもちいておこなった。投稿システムにはユーザー登録、プロフィールの編集・保存、写真の編集、SNS 記事の編集と投稿といったいくつかの機能を実装する必要がある。システムのコンセプトメイキング、仕様策定、設計、テスト、リリースと運用・評価、改善計画の立案といったウェブシステムの一連のプロセスを通じ、システム開発の実際と、そこで得られたノウハウをまとめ報告する。

[10] 勝間 翼(かつまつばさ)

経済学部経営学科・八木ゼミ4年

Google マップと連動した「麗澤の森・樹木マップ」の試作

概要:本研究は、廣池学園内にある樹木の位置を Google マップ上に表示させ、リンクを開くと樹木の紹介ページを閲覧することができるウェブアプリを開発するものである。同時に、Google マップをスマートフォンの位置情報機能と連動させ、園内を散策中でも手軽に木の情報を知ることができるようにする。現在、園内の樹木には QR コードが貼付されており、QR コードから樹木の情報を入手することができるが、それは外部のウェブサイトへのリンクによるものである。そこで本研究では、新たにサーバを用いてウェブサイトを作成することで、「麗澤の森」を通じて創立者の意志に触れることができる独自のウェブアプリを開発する。

[11] 早坂 千晴(はやさかちはる)

外国語学部中国語専攻・千葉ゼミ4年

HTML5 を用いた「赤シート」機能つき電子教材の構築

概要:「赤シート」は誰もが一度は目にしたことがある暗記学習用文房具であり、株式会社ゼブラが発売する暗記用ペンとともに使用するシートの略称である。赤と緑のシートが一般的であるが、「赤シート」と呼ばれることが多く、多くの学生が学習の際使用した経験があると思われる。本研究では、昨年度の「EPUB3 を用いた大学授業教材の構築のために」の研究で実装に至らなかった「赤シート」機能を HTML5, JavaScript, CSS3 を用いて構築する。キーワードを隠す本来の機能に加え、ヒントを出す機能などいくつかの拡張も試み、電子媒体での自己学習に役立つ機能の実装をめざすとともに、暗記したい箇所を学習者が自由に決められる機能の実現方法など、今後の展開についても考察する。

原油価格と日本経済

概要: 本研究は原油価格が企業業績に与える影響を調べることを目的とする。原油からはガソリン、石油、軽油、天然ガス、プラスチック製品など多くの燃料や製品が精製され、特にガソリンは自動車の燃料であり家庭になくてはならないものである。また、原油やガソリンは企業、特に運輸業、航空業、電力業などにとって欠かせないものであるため、原油価格は日本経済に大きな影響を及ぼすと考えられる。そこで、本研究では東京証券取引所 33 業種の株価指数と原油価格の関係を回帰分析によって調べた。それによって、どのような業種が原油価格によって影響を受けるかを検証した。

日本におけるコーヒー受容の歴史ー時系列分析を用いてー

概要: 現代日本でのコーヒー人気には驚くべきものがある。コーヒー輸入量は 2013 年度時点でアメリカ、ドイツ、イタリアに次ぎ世界第 4 位で 2013 年度にはコーヒー輸入量が 50 万トンを超えた。缶コーヒーのような、欧米にはない製品も日本には定着している一方、スターバックスなどカフェの人気も根強く、最近ではコンビニエンスストアでも淹れたてが安くまた手軽に購入できるようになった。このように愛飲されているコーヒーだが、コーヒーはどのように日本で普及してきたのだろうか。本研究では、時系列分析の手法を用い、新聞媒体を対象に、異体字や旧字体も含めてコーヒーが言及されている新聞記事や広告を収集し分析する。年代ごとの出現数や記事の種類・内容を比べながら、どのように日本でコーヒーが受容されたかを分析する。また、日本のコーヒー事情に関する文献等と本研究のデータを比較してその違いを観察し、時系列分析がもつ方法論的な意義についても考察したい。

ウイスキーブームの再来とメディア報道ー時系列分析からのアプローチー

概要: 本発表は、ブームの再来が訪れているウイスキーについて、その人気復活の過程を時系列分析の手法を用いて追跡し、その背景を明らかにすることを目的とする。日本でのウイスキー消費量は 1980 年代をピークに減少傾向にあり、日本国の酒類業界ではビール類が売り上げの中心となっていた。その中で、近年若者を中心にビール離れが進む中で、ウイスキーをソーダで割ったハイボールの人気上昇し、結果としてウイスキーが人気を取り戻していることが報道等でしばしば取り上げられてきた。本研究では、ウイスキー人気再来の過程を実証的に明らかにするため、ウイスキーに関するメディア報道(ここでは新聞媒体を中心とする)をリソースとし、その頻度と種類を年代ごとに調査し、ウイスキー人気下降した時代から、それがどのように復活したのかを明らかにする。さらに、調査結果に基づいて、ウイスキー人気の将来についても考察を試みる。

